町田市生涯学習センターのあり方見直し方針　<概要>

町田市生涯学習センター　キャラクター

マニャミン　マナブゥ

Ⅰ　検討の背景

▸町田市生涯学習センターは、２０１２年の開館以来、町田市の生涯学習の推進役を担ってきた。

▸「町田市５ヵ年計画１７−２１（行政経営改革プラン）」において、２０２１年度までに生涯学習センターの役割や事業内容を改めて見直すとともに、効率的・効果的な管理運営手法を検討し方向性を決定することとしている。

▸急激な社会環境の変化により、学びに関する市民ニーズは一層多様化しつつある。また、デジタル環境の急速な拡大やグローバル化が進んでいる。

▸第４期生涯学習審議会からの「町田市生涯学習センターに求められる役割について」及び第５期生涯学習審議会からの「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」の答申を踏まえ、生涯学習センターのあり方見直し方針を定める。

Ⅱ　町田市生涯学習センターの沿革

1　町田市生涯学習センター設立の経緯

▸生涯学習分野で事業実施主体の中心だった「公民館」と「まちだ市民大学ＨＡＴＳ」を統合するとともに、各部署で行っていた「生涯学習支援にかかる機能」である「全体計画立案機能」「関係機関との総合調整機能」「情報収集・発信機能」「学習相談機能」を担う組織として２０１２年、町田市生涯学習センターが設置された。

2　社会的背景

（1）社会教育と生涯学習

【社会教育】「社会教育法」で規定。「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、青少年及び青年に対して行われる組織的な教育活動」

【生涯学習】学習者の視点から捉えたもので、社会教育における学習のほか、学校教育や家庭教育における学習、組織的に行わない個人的な学習も含む点で、社会教育より広い活動を対象とする概念。

【公民館】社会教育法に目的や事業が規定され、市町村が設置することができる施設。町田市は「町田市公民館条例」により設置。

【生涯学習センター】生涯学習センターの具体的な定義はない。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第３０条に基づく「その他の教育機関」。町田市は「町田市生涯学習センター条例」により設置。

（2）近隣自治体の状況

◆都内２３区、多摩２６市及び近隣４市の条例の設置状況

※町田市のみ生涯学習センター条例と公民館条例の２つを有している。

条例の名称	生涯学習センター条例	公民館条例	その他の条例	相当施設なし
東京23区	8		15	3
多摩26市	7	18	3	
近隣4市	2	1	3	

◆他自治体の生涯学習センター（類似施設含む）の設置状況

運営形態	直営	指定管理を導入	全部又は一部に業務委託を導入	ネーミングライツを導入
東京9区	3	6		
多摩10市	3	5	1	1
近隣4市		3	1	

Ⅲ　現状

1　施設・地理的環境

中心市街地に立地し、商業事業者との複合施設である。ＪＲ町田駅から徒歩４分で原町田大通り沿いという、極めて好立地にある。

2　利用者数・利用率

市の貸出施設としては最も利用率の高い施設である。

利用区分	2016	2017	2018	2019	2020
利用人数計	174,577	152,522	165,030	156,168	※68,144
平均利用率	78%	78%	76%	77%	57%

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として実施した休館や時間短縮により減少。

3　事業の実績と課題

町田市生涯学習センターは、次の①から⑥の機能を担い、事業を実施している。

①全体計画・立案機能、②関係機関との総合調整機能
③情報収集・発信機能、④学習相談機能

設立時に新たに担うとされた機能。

設立以来、生涯学習支援にかかるこの４つの機能をしっかりと担うことの重要性が町田市生涯学習審議会などから繰り返し指摘されている。しかし、これらの機能を生涯学習センター１館で全て担うことは現実的ではない。

そのため、関係機関と連携しながら生涯学習支援を考えていくことが必要。

業務の配分を⑤⑥から①②③④へ。

⑤講座・イベント事業実施機能、⑥施設貸出機能

施設案内・予約システムの貸出施設名は「まちだ中央公民館」を使っており、市民にとってわかりにくい。

年間約９０件の講座・イベントを実施。多くの人的リソースが割かれている。施設の利用率は７５％を超え、高い。

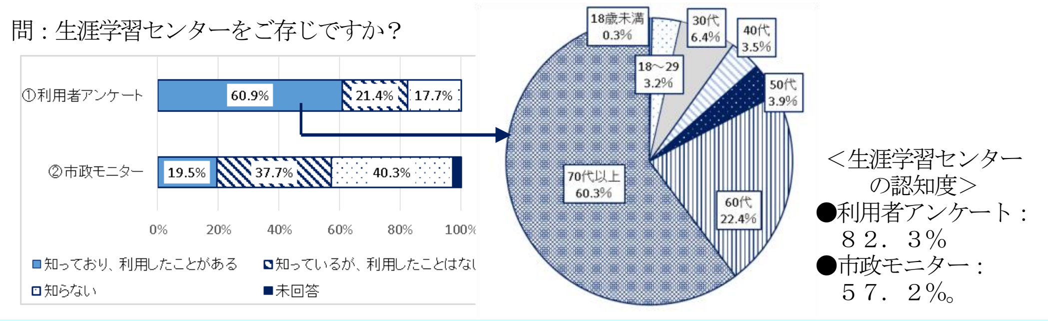
庁内他部署や関係機関などでも講座事業が実施されており、分野の重複もある。①から④の機能をしっかり担うための講座事業の整理が必要。

4　市民の声

①**【利用者アンケート】**２０２０年度に実施した町田市生涯学習センター及び市民センターや図書館などの公共施設の利用者を対象に実施したアンケート結果。〔回答者：５３７人〕

②**【市政モニター】**市民ニーズを把握し市政へ反映させることを目的に、町田市の人口比で性別・年齢別に無作為抽出した方を対象にしたアンケートで、２０２０年度市政モニター集計結果。〔回答者：１５４人〕

③**【ワークショップ】**高校生・大学生を中心とした若年層から意見を聞くために実施したワークショップ「本音で話そう生涯学習センターと未来のこと」の結果。〔参加者：１６人〕



＜生涯学習センターの認知度＞
●利用者アンケート：８２．３%
●市政モニター：５７．２%。

③ワークショップ意見

- 高齢者のイメージ。
- Ｗｉ－Ｆｉ環境、カフェ、長居できるスペースがあるといい。
- 自由に使えるテーブルとイスがあるのがいい。
- 駅近で行きやすい。
- 同じ価値観を持った人たちと繋がりたい。
- 気軽に先輩に聞ける場がほしい。

Ⅳ　課題

1
生涯学習支援にかかる総合調整機能の役割をしっかり担うための事業の整理を行う必要がある。

2
実施事業だけではなく、関係機関を含めた生涯学習情報を収集・整理し、多様な発信ができるようなハブ機能を担う必要がある。

3
学びに出会う機会を増やすため、デジタル化の推進やアウトリーチ事業のさらなる展開など、多様な学習機会を充実させる必要がある。

4
学びの入口を提供する施設として認知度を高めることで、多くの市民に親しみを持ってもらう必要がある。

5
市民が豊かな人生を送ることができるよう、社会的課題の解消につながる学びの機会を提供する必要がある。

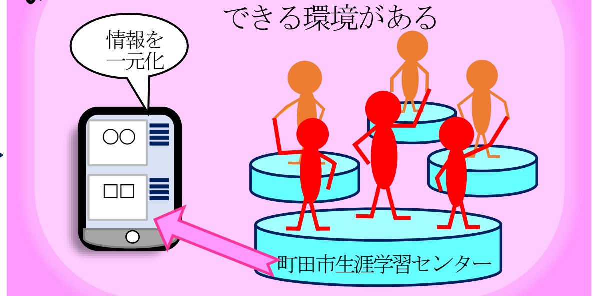
6
市民が、学んだ知識を活かすことができる機会を充実させる必要がある。

「公民館」に留まらず「生涯学習センター」の使命を果たす

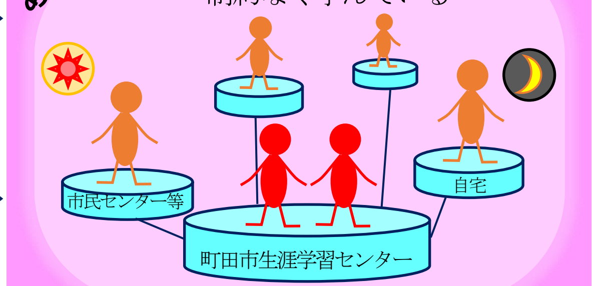
Ⅴ　めざす姿

【運営理念】"学びに出会う機会"と"学習成果をいかす機会"を提供するための中核を担います。

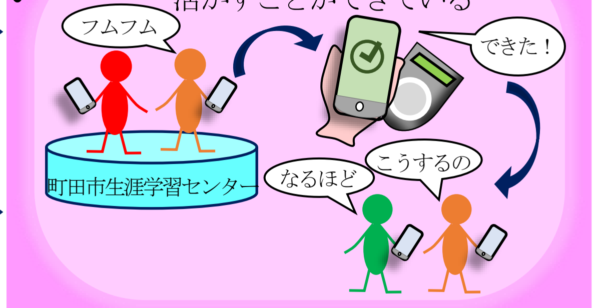
めざす姿１　市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある



めざす姿２　多様な市民が、地域や時間の制約なく学んでいる



めざす姿３　市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている



まちだ未来づくりビジョン２０４０

たくさんの学びの入口を提供し、市民の活動の場を広げ、"いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち"を叶える。

↓

生涯にわたる市民の学習を支援し、生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合を５０％にする。（現状値３０．８％）

Ⅵ　町田市生涯学習センターのめざす姿実現のための事業の見直し

１　生涯学習審議会答申

（１）第４期町田市生涯学習審議会答申
町田市生涯学習センターに求められる役割について（答申）

①誰もが学べる環境をつくる
②課題解決を支援する
③学びの裾野を広げる
④学びのネットワークづくりを促進する

（２）第５期町田市生涯学習審議会答申
今後の町田市生涯学習センターのあり方について（答申）

①事業の整理、及びリソースの再配分
今後重点を置く事業を明確にしたうえで、事業の整理を行い、生み出したリソース を再配分すること。全体コーディネートについて再認識すること。"ハブ機能" をしっかりと担うこと。

②デジタル技術の活用と地域の学びの推進
場所や時間の制約なく学べる環境を充実させるため、積極的にデジタル化を推進すること。学ぶことに支援を必要としている方に向けて、身近な地域での学びを提供するなどの配慮をすること。

③社会的課題への迅速な対応
新たな社会的課題に迅速に対応するため、事業内容の精査や新設及び廃止の検討を確実に行う体制を整えること。

④名称の整理
町田市生涯学習センターが設立された際に重点を置くべきとされた「生涯学習支援にかかる機能」の充実を確実に行うことを示すため、名称の整理を行うこと。認知度の向上及び施設への愛着の形成につながるよう工夫すること。

２　利用者意見・市民意見

何をしているのかわからないというのが率直な感想。
ＨＰのイベント情報は、一目見てパッと分かるような記載でもないので、もう少し分かりやすい方がいい。

子育て世代には町田駅まで行くのは大変で利用しようと思わない。
規模は小さくていいから分室のようなものが複数あると利用しやすい。
オンラインを活用して家でイベントや学習に参加できるようになったら嬉しい！！

高齢者を対象とするサービスも残しつつ、既存のものを峻別した上で、より幅広い世代に訴求するサービスを検討しなくては良い取り組みも先細るだけ。

地域活性化を主眼として、リーダーの講演を期待したい。
そこから人とのネットワークへ発展させて、より多くの活動へと結びつけてほしい。

生涯学習センターのＨＰは、固いイメージで怖そう。
ポップに見える化することが必要。

名称だけで何が出来る施設か想像がつかない。
生涯学習センターでは、高齢者向けのカルチャーセンターに聞こえる。
思いきって全く違う名前にし、その施設の説明をしっかりし、市民に浸透させた方が、全世代が利用する気になる。

学校で教えてくれないけど、社会人に必要なことは多いので、そういうことを聞ける場がほしい。
一人暮らしやパソコンの使い方、化粧はその一例。

限られた人達しか利用していないように見える。

生涯学習センターは『出会いが生まれる場』であって欲しい。

３　事業の見直し

めざす姿1「市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある」を叶えるための取組

機能や事業の見直しと再配分
▸学びに出会う「きっかけづくり」に重点を置く。
▸生涯学習センターが担うべき機能や事業を見直し、整理する。
▸「生涯学習支援にかかる機能」を担うため、リソースを再配分。

生涯学習情報の体系化・ネットワークの構築
▸市全域の生涯学習の全体像を把握。
▸生涯学習情報の体系化と関係機関とのネットワーク構築によりハブ機能を強化。

情報発信機能におけるデジタル化の推進
▸体系化した情報の発信にあたっては、デジタル化を推進。

学習相談におけるコンシェルジュ的機能の強化
▸体系化した情報を基に、コンシェルジュ的なきめ細かい学習相談を実施。

要支援者への学習支援
▸学びに支援が必要な方に向けた学習支援も継続して実施。

めざす姿2「多様な市民が、地域や時間の制約なく学んでいる」を叶えるための取組

若者層や働く世代向けの取組の強化
▸若者層や働く世代を対象とした利用促進策を展開。
▸若者層に向けた情報提供・アプローチを実施。

地域や時間の制約なく学べる環境づくり
▸市民センター、図書館等を利用した講座のアウトリーチの推進。
▸オンライン化の推進。
▸地域や時間の制約なく学べる環境づくり。

施設名の一本化による認知度向上
▸施設名をわかりやすく、愛着の持てる名称に一本化。
▸幅広い市民からの認知度向上を目指す。

めざす姿3「市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている」を叶えるための取組

社会的課題の解消につながる学びの提供
▸社会的課題に関する学習の機会を提供していくことで、解消に向けた取組を支援。

学習成果を活かせる場の拡充
▸生涯学習ボランティアバンクへのマッチング機能の強化。
▸主催事業のサポーター制度の創設。
▸学習成果を活かせる場の拡充を図る。

団体支援・育成の仕組みの再構築
▸団体支援・育成の仕組みを見直し、公平でわかりやすい仕組みを構築。

Ⅶ　効率的・効果的な管理運営体制の検討

１　管理運営体制の現状

（1）機能と業務内容
▸総合調整や情報収集・発信、学習相談といった生涯学習支援機能が十分に発揮できていない。
▸異動を前提とした職員体制、単年度任用を基本とする会計年度職員制度では専門性の観点から効果的ではない。

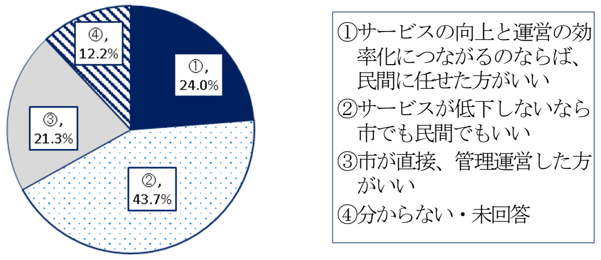
（2）施設の特性
▸複合施設であるため、運営に際し町田センタービル管理組合との調整が必要。

（3）管理運営
▸月１回の休館日以外は９時から２２時まで毎日開館（年末年始を除く。）。
▸施設貸出受付業務等一部業務を民間に委託。

２　利用者意見・市民意見

▸「サービスが低下しないなら市でも民間でもよい」は４３．７％で最多。「市が直接、管理運営した方がいい」は２１．３％。
▸「民間に任せて上手に宣伝、運営してもらった方がいい」、「民間に管理させることで時代に沿った新たなサービスを期待」という意見がある一方で、「片寄った事業や有料事業が増える」、「民間に移行して使用料が上がるなら市で運営が良い」「市民の学習は直営、専門従事者をおいて、しっかり提供してほしい」などの意見もある。

問：事業や施設の運営を民間事業者が行うことをどう思われますか？
※利用者アンケート＆市政モニター結果の合計



３　管理運営体制の課題

1　**生涯学習に関する専門性を備え、柔軟な勤務体制や臨機応変な支出が可能な運営を導入する必要がある。**

2　**見直しを進めるための実行体制を整える必要がある。**

４　生涯学習審議会答申

（1）民間活力の導入
"行政でなければ担えない機能" と "民間のノウハウが活かせる機能" を整理した上で、後者については民間活力を導入していくこと。
<民間活力導入の留意点>
◆町田市生涯学習センターの役割を十分に理解できる事業者を選定すること。
◆民間のノウハウを十分に発揮し、専門的な知識をいかしてもらうため、事業者からの提案を採用する仕組みを設けること。
◆導入後は、町田市生涯学習センターの運営理念に沿っているか、新たな価値を創造できているかなど、チェックする機能を設けること。
◆市民・行政・事業者が協働して町田らしい新たな価値を創造できる仕組みを検討すること。

（2）効率的・効果的な運営を推進する実行体制の整備
実行計画の作成や、生涯学習組織の改編を行うなど、確実に見直しを進めること。

５　管理運営体制の見直し

（1）運営手法の見直し

行政が担うべき事業と民間の専門性が活かせる事業を仕訳。
▶
公益性・地域性のある団体を念頭に、一部事業へ民間活力を導入する。
▼
施設の特性上、民間活力導入のメリットが限定される部分もあるため、導入は段階的に、効果を検証しながら実施する。
効果検証後、導入事業の拡大などを検討。

（2）組織体制等の見直し

「全体計画立案機能」の生涯学習総務課への移管。

生涯学習センター運営協議会などの、外部意見を伺う機会の整理。